資料3

議題３　老人クラブ、認知症カフェ、エンディングノートの名称について（豊川市提出）

市名	回答		
	（１）市民からの要望状況	（２）名称変更などの対応状況について	（３）その他、課題や検討状況について
名古屋市	【老人クラブ】要望なし 【認知症カフェ】要望なし 【エンディングノート】実施なし	【老人クラブ】「なごやかクラブなごや」という名称を使用 【認知症カフェ】名称変更の予定なし 【エンディングノート】実施なし	特になし
豊橋市	【老人クラブ】・・・特になし 【認知症カフェ】・・・特になし 【エンディングノート】・・・特になし	【老人クラブ】・・・平成25年度に老人クラブの愛称を募集し、「ゆたかクラブ」としている。 【認知症カフェ】・・・令和６年度認知症施策推進検討部会にて市民を含む委員と検討し、「とよはしオレンジカフェ」としている。 【エンディングノート】・・・令和４年度の事業開始時から、「エンディングノート」としている。	
岡崎市	岡崎市老人クラブ連合会について、６０代の若手会員の獲得に向け、名称変更してイメージの若返りを図るべきとの意見が組織内から出た。 エンディングノートやリビングウィルなど終末期医療の希望を想起する名称について説明不足から与える誤解等を危惧する意見があった。	老人クラブ連合会については公募により平成22年度に愛称「はつらつクラブ岡崎」に決定。広報誌のタイトルなどにも使用し、普及を図っている。 認知症カフェについては各カフェで名付けしており、「オレンジカフェ〇〇」「〇〇カフエ」などの名前を付けており、認知症カフェの名称を採用しているカフェは存在しない。 エンディングノートではなく第二の人生を前向きに過ごすための終活ノートとして配布している。	
一宮市	なし	なし	なし
瀬戸市	特になし	認知症カフェを「せとらカフェ」としています。また、エンディングノートは、「人生のほっと安心ノート」として、認知症ケアパスと併せて作成しています。	ホームページ等で周知していますが、「せとらカフェ」の名称から認知症カフェと認識しづらいため、利用につながらないケースがあると考えます。
半田市	【老人クラブ】 要望はない。 【認知症カフェ】 特に市民から指摘事項なし。 【エンディングノート】 マイナスイメージ、名称に関する市民からの指摘事項なし。	【老人クラブ】 対応はない。 【認知症カフェ】 認知症カフェを設置するにあたり、半田市版の呼び方を考えた際、シルバーだと酸化して黒くなってしまうため、いつまでも輝き続けるプラチナにしようという経緯で最初から半田市ではプラチナカフェと呼んでいる。 【エンディングノート】 半田市では、半田市版「医療・ケアについての私の事前指示書」を作成し配布している。名称については作成当時から変更なし。	【老人クラブ】 各地区の老人クラブの中には、名称をシニアクラブに変更しているところもあると把握している。 また、仮に半田市老人クラブ連合会の名称を変更する場合は、補助金等の要綱の名称変更等が必要となる。 【認知症カフェ】 プラチナカフェの認知度はまだ低いため、広報に力を入れていきたいと考えている。 【エンディングノート】 事前指示書の普及啓発と併せて、人生会議（アドバンス・ケア・プランニング：ACP）の普及啓発にも取り組んでいる。自分ごととして捉えてもらうために、誰にどのような啓発活動を行うかを考える必要がある。
春日井市	【老人クラブ】 春日井市老人クラブ連合会（春日井いきいきクラブ）は愛称があるため名称変更等の要望はない。 【認知症カフェ（おれんじプラスカフェ）】 要望無し 【エンディングノート（わたしのハッピーエンディングノート）】 要望無し	【老人クラブ】 春日井市老人クラブ連合会は平成２３年４月より、『春日井いきいきクラブ』という愛称を取り入れ、若い人にも抵抗感をなくした。現在、愛称は定着している。 【認知症カフェ、エンディングノート】 無し	【老人クラブ】 愛称は定着しているが、会員の高齢、役員の成り手不足が課題である。 【認知症カフェ、エンディングノート】 無し

議題３　老人クラブ、認知症カフェ、エンディングノートの名称について（豊川市提出）

市名	回答		
	（１）市民からの要望状況	（２）名称変更などの対応状況について	（３）その他、課題や検討状況について
豊　川　市	今年度に入り、老人クラブ会員から老人クラブの「老人」という言葉に対する抵抗感があるため、名称の変更を検討したいという意見がでてきました。 認知症カフェについても議会から、個々では親しみやすい愛称が付けられているものの、認知症の方だけが行くところという印象を持つ方もいるため、オレンジカフェなど、全体の名称変更を変更した方が良いという意見がありました。 また、市で作成しているエンディングノートについても、民生委員等からタイトルがマイナスイメージを与えるため名称を変更した方が良いという意見が寄せられている状況です。	市民からの要望を受け、名称変更に関して検討が必要であると感じています。	要望に対応する場合、名称変更をするか呼称を変更するか。対応している市町村があれば、変更に際して出てきた課題などをご教示いただきたいです。
津　島　市	特になし	老人クラブ　…　通称「みんなのきずなクラブ」 認知症カフェ　…　『オレンジ』と開催場所を使用した通称をつけているカフェが多い 通称「オレンジカフェひとやすみ」「オレサポかふぇ」「オレンジカフェナガイ」「オレンジカフェてのひら」「オレンジカフェ10時と３時」「オレンジカフェからうす」「オレンジカフェここから」「カムカムカフェ」「おしゃべりカフェ」 エンディングノート　…　通称「心をつなぐノート」	名称についての課題、検討状況は特になし
碧　南　市	特に市民からの要望はありません。	老人クラブ役員会議等で話題には上がったこともありましたが、特に変更の話は出ませんでした。	若い方は「老人クラブ」と言う響きを嫌がって会に入るのを躊躇する方も多いと聞くと名称変更を考えた方が良いのかと思いますが、近隣の市で最近名称変更を行った市や、そのままの市もあるので、名称変更が良いのかは、しばらくは考えて行きたいと思っています。
刈　谷　市	・「老人クラブ」の「老人」という言葉に抵抗があるとの意見が過去にありました。 ・認知症カフェについての名称に関する要望は特にありません。 ・配付開始時から名称を「絆ノート」としており、「エンディングノート」に対する意見等はありません。	・平成２９年度に名称変更についての検討を行い、平成３０年４月から「いきいきクラブ」と名称を変更しました。 ・認知症カフェの名称を今後も継続して使用していきます。 ・配付開始時から名称は「絆ノート」としています。	・いきいきクラブ会員の高齢化や新規加入率の低さが課題としてあげられ、事業を魅力あるものにしていく必要があると考えています。 ・認知症カフェの担い手を増加させること、認知症本人の方の活躍する場面をもっと作ること。
豊　田　市	＜老人クラブ＞会員募集の際に老人クラブの呼称が障壁となっているという声があった。 ＜認知症カフェ＞介護支援専門員（ケアマネジャー）からは、認知症カフェに限らず、認知症に関する啓発物（パンフレットなど）について、「認知症」と書いてあると誘いづらい・配布しづらいという声を聞くが、市民（当時者）からはそういった要望はない。 ＜エンディングノート＞高齢者クラブ等を対象に実施している出前講座で「わたしのノート（スタート編）」を配布しているが、参加者から名称に関する意見は特に寄せられていない。	＜老人クラブ＞新名称のアンケートを実施し、平成27年４月に全市のクラブ連合会を老人クラブから高齢者クラブ（豊田市高齢者クラブ連合会）に改称した。また、各地区連合会については、平成28年度に改称した。 ＜認知症カフェ＞新しい認知症観の普及啓発のため、認知症を隠す必要はないと考えているため、名称変更は検討していない。 ＜エンディングノート＞令和２年度に、医療・介護・福祉の関係機関と連携して、誰でも気軽に取り組むことができるよう「わたしのノート（スタート編）」を作成した。 また、社会福祉協議会が作成しているエンディングノートの名称も「わたしのノート」としている。	＜老人クラブ＞特になし ＜認知症カフェ＞認知症とあると誘いづらい・配布しづらいといった支援者側に対し、新しい認知症観の普及啓発を引き続き実施していく予定。 ＜エンディングノート＞高齢者クラブ等を対象とした出前講座を通して、啓発をする機会を増やすことができた。次は知っていただくだけでなく、ACPの実践につなげられるよう、令和７年度より「わたしのノート（スタート編）」を活用した実践編の講座を実施している。
安　城　市	老人クラブについては、地区によっては市民や会員から愛称導入について意見が出ているようです。 認知症カフェの名称については、地域や開催場所に応じて、各々でカフェの名称を決めて活動しています。 エンディングノートについては、本市は作成していません。そのため、窓口等にないのかとご質問をうけることはございます。	老人クラブについては、平成２５年４月から安城市老人クラブ連合会の愛称を「安城きらめきクラブ」に変更しています。単位老人クラブによっては愛称の導入及び導入の検討している状況です。 認知症カフェについては、変更等の予定はございません。 エンディングノートについては、現時点で作成の予定はございません。	老人クラブについては、新規加入促進と後継役員の育成に苦慮していると聞いています。 認知症カフェについては、認知症ご本人の参加が低迷していることが課題です。 エンディングノートについては、「わたしノート」の趣旨とは異なるため、別の冊子として必要という認識は持っています。 「わたしノート」とは、本人が望む場所で自分らしく最後まで生きることを家族、医療・介護の支援者がサポートするために「わたしノート」と名づけ、本人の思いを伝えるアイテムです。

議題３　老人クラブ、認知症カフェ、エンディングノートの名称について（豊川市提出）

市名	回答		
	（１）市民からの要望状況	（２）名称変更などの対応状況について	（３）その他、課題や検討状況について
西　尾　市	名称について、市民からの要望は受けておりません。	・老人クラブについては、令和７年度よりこれまでの愛称であった「西尾ゆうあいクラブ」を行事などの名称に正式に使用することとなりました。正式名称は「西尾市老人クラブ連合会」で変わりありません。 ・認知症カフェについては、「認知症」と「西尾市」の頭文字を用いた「Ｎカフェ」という愛称の使用を進めています。	
蒲　郡　市	老人クラブについては、「蒲郡市老人クラブ連合会」という名前にマイナスのイメージがあるという指摘がありました。認知症カフェについては、関係者から「認知症」という表現に嫌悪感や不安感を抱く人がいるとの声を聴いています。エンディングノートについては、今のところ市役所に意見は寄せられていません（エンディングノートは、市ではなく社会福祉協議会が作成しています）。	老人クラブについては、通称を「友愛クラブがまごおり」としました（正式名称については、「蒲郡市老人クラブ連合会」のままです）。認知症カフェについては、今現在は対応策を講じてはいません。	今後、配布物や資料等を作成する際、「認知症」以外の表現を検討したいと考えています。
犬　山　市	犬山市においては、認知度にも寄ると思いますが、市民から名称を変えた方が良いと言った声は寄せられておりません。	(1) と同様に名称変更などの要望についても、現状、事業遂行にあたり、特段問題等もないため見直し等は考えておりません。	①老人クラブにおいては、クラブ加入者数が減少しており、いかに加入者を増やすかが課題となっています。 ②認知症カフェにおいては、家族等の心労を軽減することに寄与しているものの参加者数は伸びないため、いかに参加者を増やすかが課題となっています。 ③エンディングノートにおいては、いかにノートを活用していただくかが課題で、令和7年度より市内の民間事業者（葬儀社）と協働し、ノートの書き方講座を展開しているところです。
常　滑　市	市民からの要望はない	特にない	認知症カフェについて、「認知症」を前面に出すことで参加のハードルが上がってしまう。周知方法やチラシ作成の工夫が課題。 なお、老人クラブ名称については、地域単位では「〇〇長寿会」のような名称を用いているクラブが多い。
江　南　市	老人クラブについて、市民個人から意見をお聞きすることはありますが、クラブの総意としては名称を変更しない旨をお聞きしています。 認知症カフェ及びエンディングノートについては、特に要望はありません。	認知症カフェについては、参加されている方々や参加を希望している方々にとって、親しみや明るいイメージを持っていただくために、それぞれのカフェには「認知症」という言葉を使用しない愛称が付いています。	エンディングノートについては、直接高齢者と関わる地域包括支援センターが配布した際に、一部高齢者に不快感を持たれた事例があったため、市としてエンディングノートの必要性や有効性を、高齢者やその家族に向けてより普及啓発に努める必要があると感じています。
小　牧　市	特段の要望等はありません	エンディングノートについては、「最期の迎え方」ではなく、「自分らしく生きるために必要なこと」を考え、周囲の人と話し合うことを重点におき、名称を「わた史ノート」としている。	
稲　沢　市	特にございません。	老人クラブについては、名称変更してございませんが、「ねんりんクラブ」という愛称がございます。	特にございません。
新　城　市	老人クラブは名称変更希望なし、認知症カフェ・エンディングノートについては呼称を変更	R７.3.31付けで老人クラブ連合会は解散しておりますが、連合会存続時において拠点となる老人福祉センターの名称を「ゆうあいの郷」として名称変更した経緯があります。認知症カフェは「結カフェ」に、エンディングノートは「わたしの未来ノート」に呼称を変更しました。	単位老人クラブについては、各クラブの実情に応じて名称変更を行っています。
東　海　市	特になし	【老人クラブ】 　平成２８年度に老人クラブ活性化検討委員会を設置し、当該委員会からの提言により、平成29年度に「シニアクラブ」へと名称を変更しました。 【認知症カフェ】 　平成２７年度に開設以降「ケアラーズカフェ日向家」という名称で現在も運営しています。 【エンディングノート】 　認知症の人の本人意向発信支援の目的で作成したためエンディングノートという名称は使っていないが、どなたでも活用できる内容。「私とわたしの大切な人のためのノート」(東海市名称)	特になし

議題３　老人クラブ、認知症カフェ、エンディングノートの名称について（豊川市提出）

市名	回答		
	（１）市民からの要望状況	（２）名称変更などの対応状況について	（３）その他、課題や検討状況について
大　府　市	一部の老人クラブの会員から、「老人」という言葉にネガティブなイメージがあり、名称が会員増加の妨げになっているとの意見がありました。認知症カフェについては、「認知症」という言葉の影響で行きにくいという声も少数ありましたが、名称変更の要望までには至っていません。エンディングノートについては市民からの要望はありません。	昨年11月に「おおぶ活き活き幸齢者応援八策」を策定し、年齢や心身の状況にかかわらず自分らしく幸せを実感する理想の高齢者を「幸齢者（こうれいしゃ）」と定義づけるとともに、社会参加が活発な「活躍期」から日常生活に支援が必要な「安心期」に至るまでを、様々な施策を通じて市が総合的に支援することとしています。八策のうちの一つ「新たな時代の幸齢者像の確立」に基づき、高齢期を前向きなものとして捉えてもらうため、法令などに定めがある場合を除き、「老人」、「後期高齢者」といった名称について表記を見直すこととしました。この方針に基づき、本年４月からは市内の「児童老人福祉センター」の名称を「こども幸齢者交流センター」に改めたほか、「大府市老人クラブ連合会」を「ゴールデンクラブおおぶ」に改めました。条例、規則、要綱等の見直しも併せて実施しました。 エンディングノートについて、本市では「さくらノート」と呼称しています。この名称には、あなたがあなたらしく暮らした軌跡を記すとともに、春の到来を予感させ、明るく輝く未来に思いを馳せて咲き誇り、ひらひらと華麗に舞い散る大府市の木でもある「さくら」のようなあなた自身の想いを、後世に生きる全ての人々のためにこの「さくらノート」に書き留めてほしいという意味が込められています。	「老人」表記の見直しについては、今年度からスタートしており、引き続き、様々な機会での市民周知が必要と考えています。「認知症カフェ」については、「認知症」という言葉が障壁となり、参加者が集まらないという声がある一方で、正しい表記をすることが偏見を払拭することにもつながるとの意見もあります。 また、本市では認知症施策を積極的に推進する中で、「徘徊」という言葉についても、「目的もなく歩き回る」という辞書的な意味合いが、認知症の方の実態にそぐわず、誤解を招くことにもつながりかねないとして「ひとり歩き」等に言換えを実施しています。
知　多　市	・6月の中部地区「地域のこと語ろう会」で、認知症カフェという名称が、参加するのにハードルが高いと意見があった。	・高齢者相談支援センターが作成している、認知症カフェ一覧のチラシにある「認知症カフェ」の文字は、なくす方向で取り組んでいる。 ・エンディングノートは当初から「わたしのきもち」という名称で配布している。	・認知症カフェの認知度が低いため、決まった人の参加が多く集客に苦慮している。また、車を運転しない人の交通手段がないこと等の課題がある。
知　立　市	○老人クラブ　なし ○認知症カフェ　市民からの要望は特になし ○エンディングノート　なし	○老人クラブ　今年度より知立市老人クラブ連合会から知立市青春クラブ連合会へ。 ○認知症カフェ　認知症という表現が参加への障壁になるといったワーキンググループの意見からひまわりカフェへ。認知症の方もそうでない方も一緒に話せる場としている。 ○エンディングノート　今までに問合せがないため、対応なし。	
尾 張 旭 市	特になし	・老人クラブについて平成９年市民からの要望により名称を「老人クラブ」から「シニアクラブ」へ変更 ・認知症カフェについて「かたろーな」の名称を使用	特になし
高　浜　市	【老人クラブ・認知症カフェ】マイナスイメージを指摘する声や名称変更についての要望はございません。 【エンディングノート】本年度作成中です。	【老人クラブ】クラブに加入することで生き生きとした人生が過ごせることを願い、平成17年１月から「老人クラブ」から「いきいきクラブ」へと改名しております。 【認知症カフェ】市民団体とシルバー人材センター（女性委員会）が実施しているものについては、「昭和で元気になるカフェ」と「おいでん茶屋」としており、利用者が親しみやすい名称にしている。 【エンディングノート】本年度作成中であるため、名称については今後の検討事項になります。	【老人クラブ】本市では「いきいきクラブ」へ名称を変更することにより、「老人」という言葉に抵抗を感じる人などに対し、魅力アップに繋がり、参加のハードルを下げる効果があったのではないかと推測しています。 【認知症カフェ】担い手の確保が課題であり、今後は地域の居場所づくりとして、地域支援や参加支援と一体的に検討していきたいと考えております。 【エンディングノート】ノートの書き方や活用方法の勉強会の実施方法及び配布、周知の方法について検討していきたいと考えております。
岩　倉　市	老人クラブ、認知症カフェ、エンディングノートの名称についての市民からの要望はありません。	【老人クラブ】各町内での単位クラブの名称は、「●●町老人クラブ」や「▲▲町ゆうわ会」等、各単位クラブで決めています。 【認知症カフェ】本市では、ボランティア団体である「いわくら認知症ケアアドバイザー会」が認知症カフェを運営しており、「みんなのお家ケアドカフェ」の名称で開催されています。 【エンディングノート】題名を「わたしのエンディングノート」としています。	特になし
豊　明　市	特になし	老人クラブ➡一般名としての呼称は『老人クラブ』。単位クラブとして『老人クラブ』を冠しているものもある。 認知症カフェ➡『ふらっと』。一般名として『認知症カフェ』を使用することもある。 エンディングノート➡『これからも豊かに明るく生きるために　マイエンディングノート』。一般名や略称的に『エンディングノート』を使用することもある。	特になし

議題３　老人クラブ、認知症カフェ、エンディングノートの名称について（豊川市提出）

市名	回答		
	（１）市民からの要望状況	（２）名称変更などの対応状況について	（３）その他、課題や検討状況について
日　進　市	いずれの名称についても指摘されている状況にない。	老人クラブ、エンディングノートについてはそのままの名称を使用しており、今後も変更の予定はない。認知症カフェについては、カフェ事業立ち上げ当初に名称の検討を実施し、Nカフェ（Nはにっしん、にんちしょう、ナチュラル、にこやか、なごやか、にっこりなどのイメージ）という総称で事業を推進している。	名称に関する課題は特になし。
田　原　市		○老人クラブの名称について ・「老人クラブ」という名称がよくない。という意見を聞くことはあるが、市として、名称を変更する検討はしていない。 ・現在、市老連では「老人クラブ」を「朗人クラブ」として活動している。 但し、国、県、市の補助金の申請手続等は、正式名称の「老人クラブ」を使用している。 ・単位老人クラブでは、「シニアクラブ」、「○○会」等、名称に「老人クラブ」を入れない団体がある。 ○認知症カフェ、エンディングノートの名称について ・今のところ、マイナスイメージや名称を変えたほうがいいという意見は聞いていないため、名称変更の検討はしていない。	○老人クラブについて ・市の老人クラブ連合会に加入しているクラブ数も減少しているが、名称の問題というより、役員のなりて不足、定年延長等による要因が大きいのではと考える。 ○認知症カフェについて ・今後、地域住民で立ち上げる、認知症の人（若年の方）とその家族が気軽に集まれる場は「オレンジカフェ」という名称の予定
愛　西　市	老人クラブについて市民及び単位老人クラブからの要望はない。 市議会議員の一般質問の質問内容の確認時に、老人クラブの名称を愛称にしてはとの提案あり。 愛西市八開地区老人クラブ連合会において、名称変更について相談あり。 認知症カフェ、エンディングノートの名称については要望なし。	名称変更に対応した事例はなし	
清　須　市	特になし		
北名古屋市	老人クラブについては、役員会で愛称について話があったが、具体的には進んでいない。	認知症カフェ・エンディングノートにおいて指摘を受けたことはない。	認知症についてのマイナスイメージを払拭するため、認知症カフェの周知に取り組んでいます。
弥　富　市	・老人クラブにつきましては、理事会で名前のイメージが悪いとの意見をいただいたことがあります。認知症カフェとエンディングノートにつきましては、要望はお聞きしておりません。	・老人クラブは、福寿会という名称に変えております。 ・認知症カフェについては、事業名としては認知症カフェとしておりますが、会場別に「いっぷくカフェ」や「カフェおふくろ」などの名称をつけております。 ・エンディングノートはそのままの名称で作成しております。	・特にありません。
みよし市	○老人クラブ 各地区の会員から名称変更を希望する声があった。 ○エンディングノート 一部、名称変更を希望する声あり。 ○認知症カフェ 認知症の人しか行けないと誤解するという声があった。	○老人クラブ 平成２９年度に、各地区会員の声と時代の流れに合わせて「老人クラブ」から「いきいきクラブ」に名称を変更した。 ○エンディングノート オリジナル版ノートを作成する際に検討済み。第９期高齢者福祉計画兼介護保険事業計画策定時の市民アンケートの中で、「エンディングノート」という言葉を知っているが７割を超えており、名前が市民に定着していること、オリジナルの名前を付けた際、市外に親族がいた場合にそれがエンディングノートという認識を持たれない可能性があることも考慮して、変更の予定はない。 ○認知症カフェ 認知症カフェとして活動しないとそもそも何の集まりなのかがわからなくなってしまうため、変更の予定はない。	○老人クラブ 特になし ○エンディングノート 現行のエンディングノートに広告をいれることで、無償提供いただける業者の調整中。 ○認知症カフェ 認知症そのものにネガティブなイメージがあり、認知症基本法の施行によりポジティブなイメージである「新しい認知症観」の普及が盛り込まれているため、イメージチェンジに努める。
あ　ま　市	認知症カフェという名称は、認知症の方が行くカフェというイメージがあるという声はあった。 老人クラブ、エンディングノートについては要望はない。	老人クラブはそれぞれの名称を使用している。 認知症カフェは、認知症のイメージがある為、ふれあいカフェの通称を使用している。 エンディングノートは、「心をつなぐノート」の名称としてる。	特になし。
長久手市	本市ではこれまで市民の方から名称についての要望をいただいておりません。	本市では老人クラブを「シニアクラブ」、認知症カフェを「オレンジクーテカフェ」となじみのよい名称を取り入れております。エンディングノートについてはその名称を使用しておりますが、特に問題ないと考えるため今後も使用予定です。	特にありません。